

令和6年度 教科専門試験 高等学校・特別支援学校（日本史）【解答例】

受験校種	高・特	教科科目	日本史						得点	
------	-----	------	-----	--	--	--	--	--	----	--

1 (80点)

問1	ウ	問2	イ	問3	国博士
(4点)		(4点)		(4点)	

問4	ウ	問5	イ	問6	ウ
(4点)		(4点)		(4点)	

問7	ア
(4点)	

問8	<p>上総でおきた反乱が房総半島に拡大すると、清和源氏の源頼信が追討使に任じられこれを鎮圧した。頼信は東国武士とのつながりを強めて地盤を固め、清和源氏の東国進出のきっかけとなった。</p>
(8点)	

問9	イ	問10	踊念仏	問11	ア
(4点)		(4点)		(4点)	

問12	エ	問13	イ	問14	明六社
(4点)		(4点)		(4点)	

問15	オ	問16	ア	問17	エ
(4点)		(4点)		(4点)	

問18	エ	問19	カ
(4点)		(4点)	

令和6年度 教科専門試験 高等学校（日本史）【解答例】

受験校種	高	教科科目	日本史						得点	
------	---	------	-----	--	--	--	--	--	----	--

2 (30点)

天平期は、皇族と藤原氏の間で政治的争いが続いた。光明子の立后をめぐり、729年、反対していた長屋王が藤原四子の策謀により自殺に追い込まれた。その後、光明子の立后が実現した。四子が疫病に倒れると、政権は皇族出身の橘諸兄が握った。740年、橘諸兄に重用されていた玄昉や吉備真備の排斥を要求する藤原広嗣の乱が大宰府で起こった。乱がおきると聖武天皇は、恭仁京・難波宮・紫香楽宮とあいついで遷都し、その後、平城京に戻った。混乱のなか、仏教を厚く信仰した聖武天皇は、仏教の一つ鎮護国家の思想によって国家の安定をはかろうとし、741年国分寺建立の詔で国ごとに国分寺・国分尼寺を建立し、国分寺は金光明四天王護国之寺と称された。743年には離宮紫香楽宮で大仏造立の詔を発し、造立を始めた。同年、墾田永年私財法を発し、開墾した田地の私有を永年にわたって保障し、公地公民制からの転換をはかった。

令和6年度 教科専門試験 高等学校（日本史）【解答例】

受験校種	高	教科科目	日本史						得点	
------	---	------	-----	--	--	--	--	--	----	--

3 (30点)

日清戦争によって清の弱体ぶりを知った欧米列強は、あいついで中国への進出を果たした。

1900年に入ると、中国では「扶清滅洋」を唱える排外主義団体義和団が勢力を増して各地で外国人を襲い、北京の列国公使館を包囲した。清朝政府もこの動きに同調し、列国に宣戦布告したことで北清事変が始まったが、日本を含む列国は、連合軍を派遣し、清を降伏させ北京議定書を結んだ。この出来事をきっかけに、ロシアは満州地域を事実上占領し、同地域における独占的権益を清に承認させた。

このロシアの動きに対し、日本国内には、伊藤博文をはじめロシアとの「満韓交換」を交渉でおこなおうとする日露協商論もあったが、桂太郎内閣はイギリスと同盟して韓国での権益を守る方針を取り、1902年に日英同盟協約を締結した。日英同盟成立後もロシアは満州に駐留を続けたため、日本政府は対露交渉を続けるかたわら開戦準備を進めた。国内の一部では内村鑑三や幸徳秋水、堺利彦らが非戦論や反戦論を唱えたが、国内世論は対露同志会や東京帝国大学の七博士らによる主戦論に押され、開戦に傾いていった。その後、ロシアとの交渉が決裂すると、1904年2月に日露戦争が始まった。

## 令和6年度 教科専門試験 高等学校（日本史）【解答例】

受験校種	高	教科科目	日本史						得点	
------	---	------	-----	--	--	--	--	--	----	--

## 4 (10点×4)

(1)

桓武天皇が797年に設置した令外官。国司在任中の租税徴収や官有物の管理などに問題がない場合、後任者は事務引き継ぎを完了した旨の文書である解由状を前任者に与えたが、これを審査して国司交代の不正を防ぐことを職務とした。

(2)

持明院統と大覚寺統の両統が交代で皇位に即く方式のこと。後嵯峨天皇の譲位後、後深草上皇の流れをくむ持明院統と亀山天皇の流れをくむ大覚寺統にわかれ皇統が分立し、皇位の継承や院政を行う権利、天皇家領荘園の相続などをめぐって、互いに幕府に働きかけて有利な地位を得ようとした。その際に、幕府が解決策として提示した原則である。

(3)

1839年に起きた洋学者弾圧事件のこと。異国船打払令にもとづいて、浦賀沖に接近してきたアメリカ商船を撃退したモリソン号事件に対し、渡辺崋山は『慎機論』を、高野長英は『戊戌夢物語』を書いて幕府の対外政策を批判した。これに対して幕府は、彼らが加わっていた尚齒会の他の学者たちも含め、厳しく処罰した。

(4)

1925年、加藤高明内閣が制定した法律。国体の変革、私有財産の否認を目的とする結社を禁止し、普通選挙の実施による社会主義の拡大、日ソ国交樹立後の社会主義運動の活発化を取り締まることを目的とした。1928年、田中義一内閣は最高刑を死刑・無期とし、1941年の第二次近衛文麿内閣は、違反者の再犯防止のため、再犯の疑いのある者は予防拘禁できるとした。1945年10月、GHQによって廃止された。

## 令和6年度 教科専門試験 高等学校・特別支援学校（日本史）【解答例】

受験校種	高・特	教科科目	日本史						得点	
------	-----	------	-----	--	--	--	--	--	----	--

5（20点）

## 【単元（題材）の主題】

化政文化の発達は、のちの時代にどのような影響を与えたのだろうか。

## 【授業の展開例】

## ○ 本時のねらい

- (1) 化政文化について、文化の主な内容や文化が発達した背景について理解する。
- (2) 学問の裾野の広まり、出版文化の隆盛と情報の伝播との関係、庶民による旅行の流行などから、近代や現代につながる教育や学問、文化等を多面的・多角的に考察する。

## ○ 指導上の留意点

- (1) 指導の内容は基本的な事項・事柄を中心とし、細かな点や高度なことには深入りしない。
- (2) 視覚教材や資料を活用し、社会状況の変化をとらえさせる。
- (3) 生徒間での話し合いや発表の場を設定することにより、言語活動を重視した授業展開を図る。

## ○ 具体的な展開例

## (1) 復習と導入

江戸時代前期の文化（寛永期、元禄期）について、それぞれの特徴を確認する。

## (2) 化政文化の内容について

- ア なぜ化政文化が庶民の文化として栄えたのか、仮説を立てる。
- イ 教科書・図説を参照しながら、立てた仮説を検証させ、説明を補足する。
- ウ 化政文化の内容について、簡潔に説明する。

## (3) 化政文化が与えた影響について

- ア 化政文化の内容をふまえ、その特徴について考察し、ペアで説明させる。
- イ 化政文化が近代の転換や現代の社会に与えた影響として考えられることをまとめ発表する。

## (4) 本時のまとめ

- ア 本時の学習内容について、ペアワークにより、生徒同士で授業内容を振り返らせる。
- イ 本時の取り組みについて自己評価を行い、本時の到達すべき目標に達していたか確認させる。